

「バケツ灌漑」から解放される意義

途上国の農民にとって、乾期の間、畑にどうやって水を引き込むかは生存にかかわる問題です。電力が供給されない場所では従来、「足踏みポンプ」＝写真＝や「バケツ灌漑」、「ジョウロ灌漑」という方法がとられてきました。

しかし、いずれも水源のすぐそばでしか効果を発揮しません。そのうえ重労働です。足踏みポンプでは1日何時間もポンプを踏み続けなければいけませんし、バケツ灌漑やジョウロ灌漑では重たい水を容器に入れて少しずつ運びます。この点簡易堰灌漑は、その土地の地形や高低差にもよりますが、川から数キロメートルぐらい離れた場所へ水を供給することも可能です。また、より大きな面積を灌漑できるといったメリットもあります。

